



発行者
秋田県立
仁賀保高等学校
同窓会事務局
TEL(0184)43-4791
FAX(0184)43-4792
http://nikaho-hsaa.com/

同窓会報に寄せて

同窓会長 佐藤正樹 ◆4期◆



昭和52年、277名の入学生を受け入れ開校した仁賀保高校も早40年の年月を重ね、その間、卒業した生徒数は7,574名に達し



ました。全国各地(全世界?)へ飛び立った同窓生は、それぞれの場所で自分の能力を活かし、様々な活躍をされていることでしょう。仁賀保高校は、来年11月には、40周年という大きな区切りを迎えることにな

りました。来る40周年は、同窓会の皆さんも駆けつけ、大いに盛りあげていただければ幸いです。さて、同窓会長という役目を仰せつかることになり、毎年数回は母校へ足を運ぶ機会があります。その度に感じるのが、我が後輩たちの「こんにちは」という元気のいい挨拶です。振り返ってみると、私が在籍していた30数年前の時代は、「ワルぶる」というか、真面目なのが格好悪いような風潮があり、よく先生に挨拶が悪いという指摘を受けていた記憶があります。特に、卒業式の練習では、返事だけではなく、歩き方、立ち姿まで何度も練習させられました。

そんな私でしたが、今の会社に就職して配属された時、一番最初に褒められたのが返事と歩き方でした。「人間外見じゃない」と云いますが、第一印象が大事だと初めて感じた瞬間でし

た。今思えば、恩師の先生方はそういう事を伝えてくれたのかもしれない。学校に在籍してはなかったが、あんなにきびきびした感じが、私にはなかった。私は会社の新入社員を迎える時、必ずこう言います。「あなたがどんなに優秀でも、先輩がそう思わなかったら良くない印象を持たれてしまう。一生懸命取り組んでいるのを一番解るように伝えるのが挨拶と返事だよ」と。30数年前に自分が褒められた事を未だに押し付けているのです。いずれにせよ、そんな良い伝統が今も母校の後輩に脈々と続いていると思うと素晴らしい事だと思つて入るたびに思っています。

少子化に伴う学校の統廃合が取りざたされている中ですが、学校が続く限り、後輩にはずっと受け継いで欲しいと思っております。

平成28年度 入学式 新入生100名



昭和五十九年に神職として神宮に奉職した私は、平成五年第六一回式年遷宮の奉仕を終え、はじめての頃、ある事に悩み始めました。「世の中の職業を削ぎ落とす時、果たして神職は必要か?」「自分は何かをする為に生まれ、何故今、此処にいるのか?」

「阪神大震災や参拝者の接遇、祭の奉仕を通じ一、神社は人々の心の拠り所である。」

二、祭は、日本人が「古より大切にしてきた」稲の収穫時期に人々が寄り集い、昔ながらの手振りで、「今」に感謝し「未来」の平安を祈る大切なしきたりである。

三、神宮の祭・建物等には、生活の「原点」が沢山あり、それは遺跡や文化財ではなく「現実」で、そこには日本人の英知が脈々と息づいている。

自分はその一端を担っている事実を自覚し、むしろ誇りに思えるようになりました。

そして平成二二年儀式課長(祭を実質的に取り仕切る要職)を拝命。平成二五年の第六二回式年遷宮を控え、「これぞ我が使命、腕の見せ処」と胸を躍らせ、圧倒的努力で臨む決心を致しました。調査、現地打合せ、用物準備、各部署との調整、習礼(式次第・奉仕内容の説明、部分的予行練習)等を繰り返すうちに、奉仕員の士気が日増しに高

まってくるのを実感しました。遷宮関係の祭には、凡そ七〇名が前夜からお籠もりして奉仕致しますが、祭場の準備は八名の祭庭係だけで沢山の用物を運び込んで行わなければなりません。

とそこには大勢の仲間達が集装姿で勢揃い。「齊藤課長、僕たちにも手伝わせて下さい」との心意気に、思わず胸が熱くなりました。同時に「この遷宮は人の和で立派に成し遂げられる」と確信した瞬間でもありました。おかげで無事完了しましたことは尊いご神慮によるものと、まことに有難い限りです。

式年遷宮に奉仕をして

伊勢 神宮 禰宜 齊藤 郁雄(1期)



50号記念 特別寄稿

ある日の早朝五時、我々八名は誰も目を覚まさぬようそっと起き出し、潔斎へと向かいました。何やら人の動く気配が感じられました。が、心を静め身なりを整えて玄関へ向かいました。す

と、ここまでに至った「原点」はやはり仁賀保高校生の頃にあります。三年生の夏に部活で脱落、進路に迷い落ち込んでいた最中、さだまさしさんの対談集で神職の世界を垣間見、明るくて優しい包容力に心が大きく揺れ、是非この道を志したいと皇學館大学文学部神道学科を目指すことに決めました。そこでゴールから逆算をし、今やれること、やるべき事に集中して我武者羅に勉強しました。「目標に向かいひたすら努力する」三年のクラスにはそんな雰囲気が出ており、その波に乗ってどうにか合格出来た次第であります。

「仁賀保高校なくして今の自分なし」です。卒業して三六年、あの頃

のことがしみじみ懐かしく思い起こされます。同級生の佐藤久男君もこの春より母校の教頭として活躍の様子。そして来年はいよいよ創立四〇周年。みんな元気かな! ※式年遷宮 二〇年に一度社殿・調度品等全てを一新し、新宮に神儀をお遷し申し上げる大祭。



第六二回 神宮式年遷宮 「別宮の遷宮」より (写真中央)

追記、毎年夏になると新聞で、必ず一度は仁賀保の文字を、時には数度見るのが楽しみです。もっと見させて下さい。頑張れ野球部!